

# 東紀州地域における複式版年間指導計画に基づく実践

## — 「聞くこと」の学力調査 —

大野恵理\*・須曾野仁志\*\*・萩野真紀\*・榎本和能\*

The implementation of multi-grade curriculum in Higashikishu

— Assessing students' listening abilities —

Eri Ono\*, Hitoshi Susono\*\*, Maki Hagino\*, Kazuyoshi Enomoto\*

### 要 旨

本研究では、著者らが2018年度に提案した「圧縮版年間指導計画」に基づく小学校外国語の指導方式の効果を検証した。三重県南部の東紀州地域の小学校のうち、約半数に複式学級がある。複式学級とは、2つ以上の学年を1つに編成した学級である。2017年度までは、この地域では「A・B年度方式」に基づいて小学校外国語活動が指導されていた。この指導方式は、2学年の内容をA年度とB年度の2年間に配分し、いずれの年度においても両学年に、同時に同じ内容を同じ目標のもとに同程度に指導するものである。2学年が一緒に学習できるが、系統的な指導ができない。「A・B年度方式でも学年別指導でもない、児童みんなが楽しく効果的に外国語を習得できる指導法や教材を開発してほしい」という、地域の要請を受ける形で開発されたのが圧縮版年間指導計画である。2018年度に圧縮版年間指導計画を公開し、出前授業や教員研修を通して普及を行った。圧縮版の普及が進むにつれて、「圧縮版に基づいた指導で、児童の学力の保障はされているのか?」という問い合わせが寄せられるようになった。そこで、東紀州地域のA教育委員会の協力を得て、A教育委員会管内の小学校第6学年を対象に「聞き取りテスト」を行い、圧縮版に基づいて指導を受ける複式学級の児童が、通常の年間指導計画に基づいて指導を受ける単式学級の児童と同程度の「聞く力」を身に付けることができているか、量的な分析を行った。

2回の聞き取りテスト(2019年度及び2020年度)において対応のないt検定を行い、平均値間に統計的な有意な差が認められず、どちらの方式で学んでも児童の聞き取りテストの平均点数の差がないことが判明した。

キーワード：小学校外国語、複式学級、年間指導計画、圧縮版、学力の保障

### はじめに

東紀州地域(尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町)は、豊かな自然に恵まれている一方で、林業や漁業などの主要産業の衰退により深刻な過疎化が進んでおり、広大な地域(東京都の半分程度の面積)に、小規模の小学校30校が点在している(2021年4月現在)。うち16校に、2つ以上の学年を1つに編成した複式学級がある。2017年度までは、この地域の複式学級の多くで、「A・B年度方式」(同単元同内容同程度)に基づいての外国語活動が指導されていた。

この方式では、2学年の内容をA年度とB年度の2年間に配分し、いずれの年度においても両学年に同時に同じ内容を同じ目標のもとに同程度に指導する(島根県教育委員会, 2017)。この方式の長所は、より多く

の人数で学ぶことができるため、コミュニケーションが学習活動の中心に位置付けされる外国語学習では、学年別で学習するよりも効果的であると考えられる。また、指導者にとっても1学年分の指導の準備でよいいため、学年別指導で2学年の指導の準備をすることに比べて、負担が少ない。しかし、単式学級であれば「When is your birthday?」(第6学年の学習内容)を、A・B年度方式においては、Hello(5年生の学習内容)より先に学習することが生じるため、系統的な指導ができないという短所もある。

「A・B年度方式でも学年別指導でもない、児童みんなが楽しく効果的に外国語を習得できる指導法や教材を開発してほしい」という、地域の教育関係者からの要望に応える形で、2018年度に著者らが開発したのが「圧縮版年間指導計画」である(大野・須曾野・萩野・

\*三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎

\*\*三重大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻

榎本, 2020)。2 学年分の内容を 1 年間に圧縮して単元を構成し、2 年間繰り返して指導する（島根県教育委員会, 2017）。この方式の長所は、「みんなで楽しく学習することができること」であるが、圧縮のため時間的な余裕がなくなることから、系統性を考慮した指導計画を作成する必要がある。

そこで著者らは、圧縮のため時間的な余裕がなくなるといふ欠点を解消するために、ICT を積極的に活用して指導計画を作成して、効果的に時短学習ができるようにした。例えば、*He can jump high.* の表現を指導する際には、従来の指導では担任と外国人指導助手 (ALT) がスキット (寸劇) をして、児童に *can* の意味を推測させていた。圧縮版では、インターネットで公開されている NHK for School の番組である「エイゴビート」や、YouTube 等の動画を活用し、児童が 3 分程度の動画を見て意味を容易に推測できるようにした。

さらに、基礎的な活動は時間をかけて丁寧に指導し、応用的な活動は簡略化して、圧縮のため時間的な余裕がなくなるといふ欠点を解消する工夫をした。例えば、第 5 学年では *always, usually, sometimes, never* の 4 つの語彙を指導することになっている。圧縮版では、「これらの語彙を聞いて理解できる」活動を、基礎的な活動として捉えて指導する。そして使う頻度が高い *always, sometimes* については、「語彙を使って自分の日課を伝えることができる」活動を、応用的な活動とした。4 つの語彙から 2 つを選ぶことで、時短を目指した。また、第 6 学年の児童は、前年度に *always, sometimes* を学習しているため、第 6 学年次には *usually, never* の語彙を使って日課を伝える活動を負荷とした。

著者らは、年間指導計画だけではなく、上記のような工夫を凝らした年間 50 時間分の指導案も作成して東紀州地域で公開するとともに、出前授業や教員研修を積極的に行い、圧縮版指導計画に基づいた指導の普及を行った。さらに、2020 年度には新学習指導要領が全面実施となり、東紀州地域で採択された教科書 *One World Smiles!* (教育出版) に合わせて「圧縮版年間指導計画」を再度作成し、公開・普及を行った。著者らが圧縮版年間指導計画を公開・普及して 4 年目の 2021 年 1 学期の時点で、東紀州地域のほぼすべての複式学級において、圧縮版年間指導計画に基づいて外国語が指導されている。

## 問題と目的

「圧縮版年間指導計画」は、「完全一本案」、「繰り返し案」とも呼ばれ、複式学級の指導方法の 1 つである。複式学級における外国語指導においては、高知県教育委員会事務局 (2018)、島根県教育委員会 (n.d.) が、「完全一本案」や、それに近い「折衷案」を公開している。

しかし、小学校外国語における「圧縮版年間指導計画」に基づいた指導効果の検証は、全国での報告例はない。著者らが「圧縮版年間指導計画」を公開した 2018 年度から、「圧縮版に基づいた指導で、児童の学力の保障はされているのか？」という問い合わせが、複数寄せられていた。複式学級で「圧縮版」に基づいた指導を受けた児童が、単式学級で通常の年間指導計画に基づいた指導を受けた児童と同等程度の学力を身に付けることができているか、効果の検証が必要であった。小学校外国語には、習得すべき 4 技能 (聞く・話す・読む・書く) があるが、そのうちの「聞くこと」について、指導の効果を検証することにした。著者らは、2019 年度末と 2020 年度末の合計 2 回の調査を行った。

## 方法

1. 調査対象：①2019 年度に、三重県南部地域の A 教育委員会管内の第 6 学年 (94 名)。内訳は、圧縮版年間指導計画に基づく指導を受けた複式学級第 6 学年 (12 名) と、単式学級第 6 学年 (82 名)。②2020 年度に、三重県南部地域の A 教育委員会管内の第 6 学年 (87 名)。内訳は、圧縮版年間指導計画に基づく指導を受けた複式学級第 6 学年 (13 名) と、単式学級第 6 学年 (74 名)。
2. 調査時期：①2020 年 2 月、②2021 年 2 月
3. 調査方法：①著者らが作成した「独自テスト」を各学校で実施してもらった。独自テストは、日本英語検定協会が主催する児童向けの英検 Jr. (ジュニア) を模して、著者らが作成した全 12 問の聞き取りテストである。独自テストでは、児童がこれまでに学習した既習表現について、CD から流れる英語を聞いて、それに合ったイラストや応答を選ぶ。②英検 Jr. 学校版 BRONZE (ブロンズ) を各学校で実施してもらった。英検 Jr. 学校版 BRONZE とは、小学校での英語学習経験が 1 年半～2 年程度、もしくは英検 Jr. を初めて受験する児童が対象で、成績は合否ではなく「正答率」で表示される。

## 結果

- ① 独自テストの平均点数に差があるかどうかを検証するために、対応のない *t* 検定を行った。その結果、平均値間に統計的な有意な差が認められず ( $t(92) = .58, p = .56$ )、どちらの方式で学んでも児童の聞き取りテストの平均点数の差がないことが判明した (表 1)。
- ② 英検 Jr. ブロンズの平均点数に差があるかどうかを検証するために、対応のない *t* 検定を行った。その結果、平均値間に統計的な有意な差が認められ

ず ( $t(85) = -.78, p = .44$ )、どちらの方式で学んでも児童の聞き取りテストの平均点数の差がないことが判明した(表2)。

	人数	平均値	標準 偏差	自由度	t 値	有意 確率
複式	12	10.00	2.89	85	-.78	.44
単式	82	10.38	2.12			

表1：2020年2月実施 独自テストの平均値

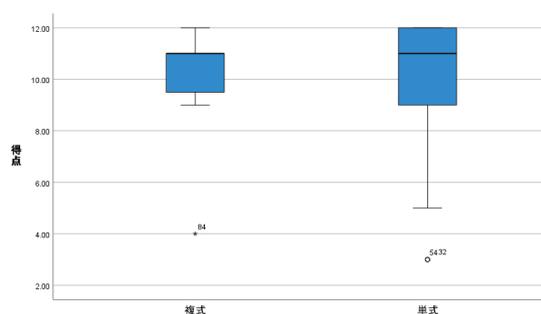


図1：2020年2月実施 独自テストの得点分布

	人数	平均値	標準 偏差	自由度	t 値	有意 確率
複式	13	86.7	10.36	85	-.78	.44
単式	74	84.4	9.59			

表2：2021年2月実施 英検 Jr. ブロンズの平均値

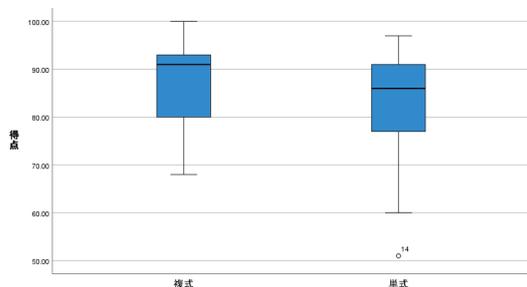


図2：2021年2月実施 英検 Jr. 得点分布

## 考察

2020年2月実施の「独自テスト」は、12の基礎的な既習表現を問う内容のテストを、著者らが開発した。2020年2月にA教育委員会管内の小学校に通うすべての第6学年を対象に、テストが実施された。独自テストで児童の「聞く力」を測定した経緯は、有料のテストをする予算がなかったことに加え、「子どもに負担のないように既習表現の定着を調べて欲しい。」という、A教育委員会の小学校長会からの要望であった。図1の独自テストの分布図にあるように、得点の分布が満点に偏る「天井効果」が見られる。児童に既習表現が定着していることが明らかになった一方で、問題が難しければ測定できたかもしれない「聞く力」が、測定できなかった(内容的妥当性)課題が残った。

2021年2月には、A教育委員会の経済的支援を得て「英検 Jr. 学校版 BRONZE」を実施し、児童の「聞く力」を測定した。調査対象は、2021年2月にA教育委員会管内の小学校に通う、すべての第6学年の児童である。独自テストおよび英検 Jr. 学校版 BRONZEにおいて、複式学級と単式学級の平均値間に統計的な有意な差が認められなかった。つまり、圧縮版年間指導計画に基づいて指導を受けた児童は、通常の計画に基づいて指導を受けた児童と同程度の「聞く力」を身に付けることができていると言える。

## まとめと今後の課題

本研究では、著者らが2018年度に提案した「圧縮版年間指導計画」に基づく小学校外国語の指導方式の効果を検証した。東紀州地域のA教育委員会の協力を得て、A教育委員会管内の小学校第6学年を対象に「聞き取りテスト」を2回実施し、圧縮版年間指導計画に基づいて指導を受ける複式学級の児童が、通常の年間指導計画に基づいて指導を受ける単式学級の児童と同程度の「聞く力」の身に付けることができていることを明らかにした。

今後の課題として、小学校外国語では「話すこと」の2技能が中心となっているため、今後は「話すこと」についても調査して、「圧縮版年間指導計画」に基づく指導が、児童の「学力保障」に結びついているか明らかにする必要がある。さらに、2回のテストと同時に実施した「外国語学習に対する児童の意識調査」を分析して、「聞く力」の保障と関連している要因を明らかにする必要がある。

平成30年度の学校基本調査によると、全国の小学校の総学級数は273,647で、そのうちの1.6%が複式学級である(文部科学省, n.d.)。小学校外国語において、複式学級における指導の研究は進んでおらず、全国のほ

とんどの複式学級で従来の「A・B年度方式」、もしくは「学年別指導」で外国語が指導されていると考えられる。ICT環境が整ったことで「圧縮版年間指導計画」に基づいて指導することが可能になった。今後、さらに「圧縮版年間指導計画」について調査を続け、「学力の保障」に加え、「児童みんなが楽しく効果的に外国語を習得できる」ことを明らかにしていきたい。

## 謝辞

本研究に協力してくださったA教育委員会、およびA教育委員会管内の小学校の児童・教員みなさまに感謝申し上げます。また、本研究の統計処理についてアドバイスをいただいた、三重大学教育学部の奥村晴彦名誉教授にも感謝いたします。

## 引用文献

- 大野恵理・須曾野仁志・萩野真紀・榎本和能（2020）．東紀州サテライトによる複式版外国語年間指導計画に基づく実践．三重大学教育学部研究紀要 教育実践. 71, 515-522.
- 高知県教育委員会事務局（2018）．移行期間中の複式学級年間指導計画例 [https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/gaikokugoka\\_tudou.html](https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/gaikokugoka_tudou.html)（参照日 2019.11.29）
- 島根県教育委員会（n. d.）．H31年度年間指導計画 5・6年（50時間）<http://eio-shimane.jp/document/docacademic-training/gaikokugo-zikannwarireitou/317>（参照日 2019.11.29）
- 島根県教育委員会（2017）．複式学級の手引き（平成27年度改訂版）<http://eio-shimane.jp/project/hukushikyoubu/319>（参照日 2019.11.29）
- 文部科学省（n. d.）．学力基本調査—平成30年度結果の概要—[https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k\\_detail/1407849.htm](https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1407849.htm)（参照日 2021.11.26）